

安全にお使いいただくために

安全上のご注意

商品を安全にご使用いただくために、必ず守っていただきたい事項です。
個々の商品の注意事項は、各商品の説明ページにも記載されていますので、併せてご確認ください。

窓や網戸についての注意事項

▲ 注意



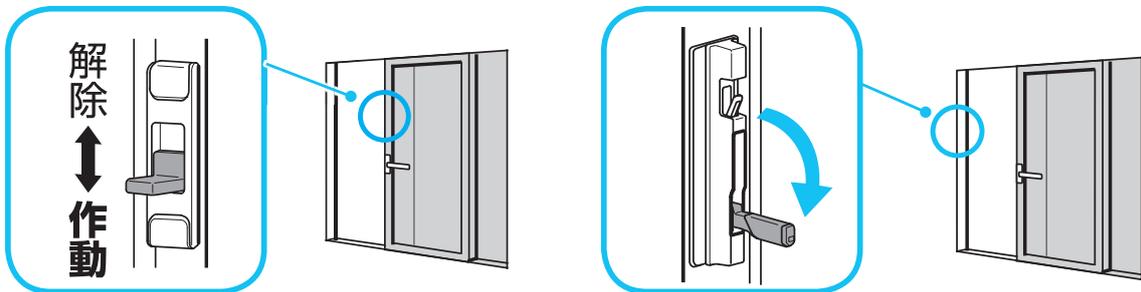
[強制]

使用中、網戸のはずれ止めがずれることがあります。時々点検し、正しくはずれ止めがセットされていることを確認してください。はずれ止めが正しくかかっていないと、網戸がはずれて落下し、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。



[強制]

指はさみ防止用ストッパーは作動する状態でご使用ください。解除した状態で使用すると指をはさむおそれがあります。



指はさみ防止用ストッパー

お願い

風の強い時は窓を閉め、必ずロックしてください。
ロックしないと、風の力で窓が急に開閉し、その衝撃で破損や落下が起こり、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。

- ・窓に寄りかかるなど、荷重をかけないでください。窓の破損や落下によって思わぬけがや事故につながるおそれがあります。
- ・網戸にぶつかったり、寄りかかったりしないでください。網戸がはずれ、破損や落下し、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。特にお子様にはご注意ください。
- ・窓のそばを通る時は、開いている窓やハンドルにぶつからないようご注意ください。けがや窓の破損につながるおそれがあります。
- ・小さなお子様が、ハンドルなどにぶらさがって遊ばないようにご注意ください。ハンドルなどの破損により、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。
- ・窓の下枠やハンドルなどの金属部分は、真夏の直射日光などで熱くなる場合があります。素手や素足で触れないようご注意ください。
- ・外出や就寝の際には必ず窓を閉め、確実にロックしてください。また、ロック後は、窓が開かないことを確認してください。
- ・網戸を使用していても、虫の大きさや種類によって完全に侵入を防ぐことはできません。

窓や網戸の開閉時の注意事項

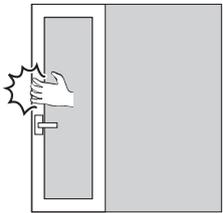
お願い

窓（網戸） スライド系（大開口スライディング・スライド網戸 など）



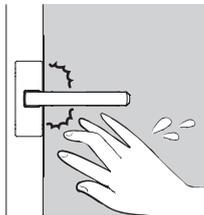
周囲に人がいないことを確認！

窓（網戸）の開閉は、周囲に人がいないことを確認してから行ってください。窓（網戸）が人にぶつかったり、窓（網戸）で指をはさんだり、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。



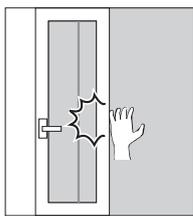
窓（網戸）と枠、窓（網戸）と窓（網戸）のすき間に注意！

窓（網戸）の開閉時に、窓（網戸）と枠、窓（網戸）と窓（網戸）のすき間に手や足を置かないでください。指をはさんで、けがをするおそれがあります。



部品のすき間に注意！

窓の操作部品や、可動部品のすき間に手や足を置かないでください。指をはさんで、けがをするおそれがあります。



ハンドル・手かけ部以外の部位を持って開閉しない！

窓（網戸）の開閉は、必ずハンドル・手かけ部を持ってゆっくり操作してください。ハンドル・手かけ部以外を持って操作すると、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。特に全開時は、引き残しが無いのでご注意ください。

- ・ 窓（網戸）の開閉時に誤って室外に転落しないようご注意ください。
- ・ 窓（網戸）の開閉やロックなどの操作時に指をはさまないようご注意ください。爪を損傷するなど、けがをするおそれがあります。
- ・ 窓（網戸）の開閉はゆっくり静かに行ってください。無理な操作や誤った操作、また衝撃のあるような（乱暴な）開閉をすると、窓（網戸）を破損するおそれがあります。

窓や網戸の調整・お手入れ時の注意事項

▲ 注意



[強制]

お手入れなどのために網戸をはずして再び取り付けるときは、必ずはずれ止めをセットしてください。
正しくセットされていないと、網戸がはずれて落下し、思わぬけがや事故につながるおそれがあります。

● 網戸の取り付け、取りはずし、調整、お手入れについて

- 誤って室外に転落しないようご注意ください。
- 周囲に人がいないことを確認し、安全に十分注意して行ってください。窓や網戸にぶつかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤って窓や網戸を倒したり、落下させたりしないようご注意ください。
- 不安定な台の上などで行わないでください。転落や転倒により思わぬけがをするおそれがあります。
- 調整で使用するネジ以外は絶対にさわらないでください。万が一はずれてしまった場合は、乳幼児が飲み込まないようご注意ください。
- 指や手をはさんだり、巻き込まれたり、窓や網戸の端部や部品のかどに手をぶついたりしないようご注意ください。けがをするおそれがあります。
- 爪を損傷しないようご注意ください。

ご使用にあたって

商品を長く正常な状態でご使用いただくために、日常生活の中で気をつけていただきたい事項です。

●窓や網戸の点検について

長期間、窓や網戸をご使用になると、ネジのゆるみが発生することがあります。お手入れの際に商品のネジ部品がはずれたり、ゆるんだりしていないことを点検してください。

(→ P.38「保守点検」)

知っていただきたい現象

日常生活の中で『何かおかしいな…』と感じることがある現象も、窓の不具合ではなく、商品の特性に関連して発生する場合があります。

ここでは発生する可能性のある現象について、商品の特性を踏まえて説明しています。

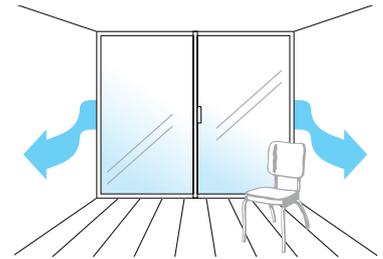
窓を閉めきった時のすき間風

窓を閉めきった時のすき間をふさぐために、枠や窓にはパッキンなどの気密部品を取り付けています。強風や季節風などによって室内外に気圧差が生じると、この気密部品の接触部分からすき間風が発生します。

これは自然現象のひとつであり完全になくすことはできません。

ただし、すき間風があまりに激しい場合は、窓各部の調整が不十分であることが考えられますので、調整をお願いします。

なお、換気扇を使用した場合は、強制的に空気を室外に排出するため、気密材と枠または窓の接触部分から空気が入ることがあります。



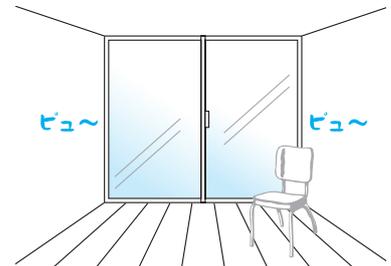
窓の笛鳴り現象

窓を閉めきった状態で換気扇を使用した場合、強制的に空気が室外に排出されると共に、同じ量の空気が窓のすき間などから室内に入り込もうとします。気密部品と枠または窓の接触部分を通り抜ける空気が、笛を吹く状態と同じ現象を起こします。

これは自然現象のひとつであり完全になくすことはできません。

ただし、この現象は窓各部分の調整が不十分である時にも生じますので、調整をお願いいたします。

なお、強風時や高層マンションのように常時風が吹き抜ける所においても笛鳴り現象が起こることがあります。



結露について

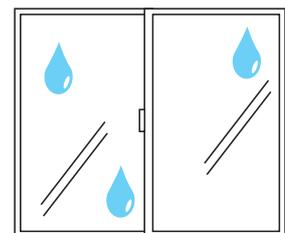
結露は、室内外の温度差が大きく室内の湿度が高い場合、季節を問わず発生します。

これは自然現象のひとつであり、窓の不具合ではありません。

また、室内の環境状況によっては、断熱窓を使用していても発生する場合があります。

完全になくすことはできませんが、できるだけ発生を抑える方法として下記の点を心がけてください。

- ① 過度な加湿の防止（上限 60%）
- ② 換気の促進
- ③ 室温は適温に保つ
- ④ 空気の流れをよくする



『脱・結露のススメ』というパンフレットをご用意しております。

ご要望の方は当社お客様相談室までご連絡ください。（☎ 0120-20-4134）

ガラスの熱割れについて

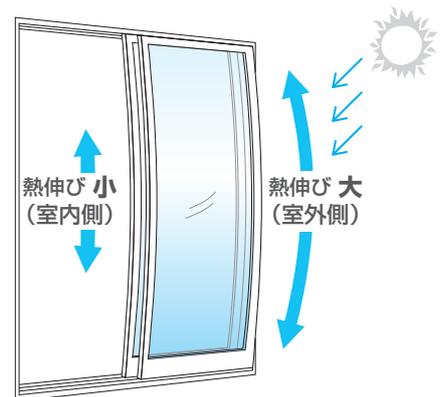
ガラスは熱によって膨張する性質を持っているため、直接日射を受ける部分と窓枠などの中に隠れている部分とで、温度の差による熱膨張差が生じます。この熱膨張差がガラスの持っている「強度」を超えた場合、ガラスが割れます。これが網入りガラスに多く見られる「熱割れ」と呼ばれる現象です。ガラスに割れが発生した場合、すみやかに交換してください。

熱割れを予防するポイント

- ガラス面にカーテンやブラインドを密着させない。
- 暖房・冷房の温風・冷風をガラスに直接当てない。
- ガラス面に紙を貼ったり、ペンキを塗ったりしない。
- 室内に熱だまりを作らない。

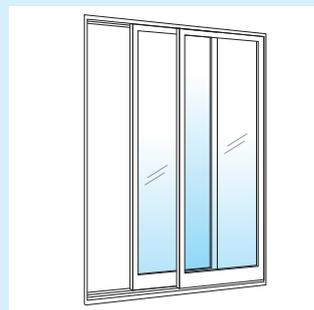
トリプルガラスの熱反りについて

トリプルガラスは室内外の温度を伝えにくい構造になっているため、日差しや室内外の温度差により、ガラス本体室外側の面と、室内側の面で伸びる量に差が生じます。これにより、反りが発生する場合があります。また立地条件、ひさしの形状により反り量は一定ではありません。一時的な現象であり、ガラス本体の室外側と室内側の表面温度差が小さくなると元に戻ります。特に、内外の窓が同じ位置で重なり合う状態では、窓の間に熱がたまり、異常な高温状態となる場合があります。



熱反りを予防するポイント

- 日中、窓を開け放して使う際は、2枚の窓が完全に重なり合わないよう、ずらして使用する。



複層ガラスのゆがみについて

ガラス表面に反射して映る映像がゆがんで見えることがありますが、中空ガラスの構造上避けられない現象です。

トリプルガラスの中空層は密閉された構造のため、温度や気圧の変化などによって内部の空気の収縮や膨張が起こります。これにより、ガラスが湾曲しガラスの表面に反射して映る映像がゆがんで見えます。特に Low-E 複層ガラスでは反射率が高いためゆがみが目立つことがあります。

ステンレスのさびについて

ステンレスは表面に独自の保護皮膜が形成されます。この皮膜は空気中の酸素が触れている間は優れた耐食性を示す性質を持っていますが、表面が汚れると酸素との接触が妨げられ、さびが発生することがあります。

特に下記のような場合は、さびが発生しやすくなります。

- 塩素系の洗剤がステンレス部に付着した場合
- 海岸沿いなどの環境において塩分が付着した場合
- 他の物のさびがステンレス表面に付着した場合（もらいさび）など

さびを予防するポイント

- 一旦発生したさびは落とすことが難しいため、日頃から中性洗剤（1～2%の水溶液）で、こまめにお手入れをする。

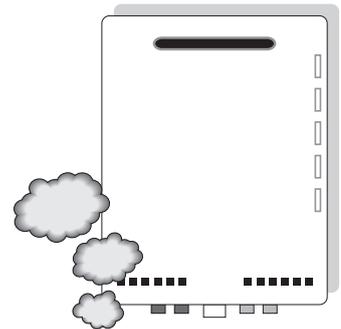
ガス給湯器などの排気ガスによる腐食について

ガス給湯器などからの排気ガスが、アルミ部材の塗膜のはがれなどの表面異常の原因となることがあります。

ガス給湯器などの排気ガスの成分には、微量ながら硫黄分が含まれている場合があります、この硫黄分が空気中や排気ガスの水分と化学反応を起こして、亜硫酸、硫酸のような強い腐食性の酸を作ることがあります。

これらの酸が塗膜表面に付着すると、塗膜自体を劣化させ、塗膜の下のアルミに達し、アルミとの化学反応によって塗膜はがれなどの表面異常を引き起こすことがあります。

また、ガス給湯器や車の排気ガスが直接当たらなくても、周辺の通気が悪く、排気ガスが滞留するような場所にアルミを使用した場合でも塗膜のはがれなどが起こるおそれがあります。



腐食を予防するポイント

- ガス給湯器および車の排気ガスが直接アルミに当たらないようにする。
- 排気口近辺にアルミ部材を設置する場合は、こまめにお手入れし、周辺の通気を確認したうえで使用する。

樹脂製商品への殺虫剤などの薬剤散布によるひび割れ、はがれについて

薬剤が付着すると、ひび割れやはがれが発生するおそれがあります。

ひび割れ・はがれを予防するポイント

- 殺虫剤などの薬剤を樹脂表面に塗布・散布・付着させないように注意する。

下枠の雨水たまりについて

下枠に雨水がたまることがあります。これは、窓の水密性能を保持するために構造上必要な状態であり、不具合ではありません。

清掃時の散水による水浸入について

窓を閉めた状態で雨が室内側へ入らないよう、窓にはパッキンなどの気密部品がついています。これは、強風を伴う降雨時を想定した所定の水密性能を確保するためのものですが、窓と枠のすき間を完全に密閉するものではありません。

清掃時に、ホースや高圧洗浄機などで強く水をかけたり、下から上方向に水をかけたりすると、室内側へ水が入る場合があります。これは、水の勢いが強かったり、上方向に水をかけたりしたことで、通常の降雨を想定した窓の水密性能を超える状況となったことによるもので、窓の不具合ではありません。

清掃時は、草花に水やりする程度の水流で、下方向にシャワー状の水がかかるように散水してください。

